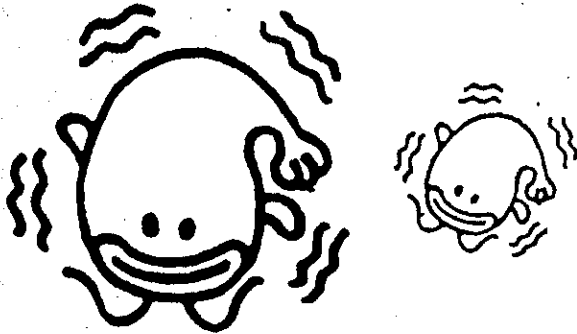


衣川台なまず通信

第9号



発行 衣川台自主防災部
発行日 2007年4月26日

《安心安全な生活のために》

部長 荒川 正彦（自治会長）

この度、平成19年度衣川台自治会長への就任に併せて、自主防災部長の役を仰せつかりました。当衣川台団地は、東斜面に開けて琵琶湖を望み、西の後背には比良山系、比叡山を控え、まことに自然に恵まれた環境にあるといえましょう。

しかしながら見方を変えれば、近年の急速な高齢化の中で、お年寄りには歩行しづらい急な坂道と、団地のすぐ東を南北に通る「琵琶湖西岸断層」、西の山並みを越えれば「花折断層」、といった地震発生源があると知らされ、おまけに人為的ではありますが、学区変更により、避難場所までアプローチしづらい環境になっております。

先日の「能登半島地震」の報道を見ましても、家屋の倒壊、崖崩れ、道路の陥没といった物理的被害のほか、高齢単世帯や高齢単身者の救済の問題、などが目につきます。

幸い、衣川台自主防災部は、目的意識の高い災害活動員を中心に、住民全員を対象とした助け合いと、情報収集のための安否確認システムの構築など、近隣の自主防災部から参考にしたいとされるほどの体制を整えつつあります。部員（自治会員）の皆様には、安心安全な生活を皆で共有できるよう、活動にご参加頂きたいと存じます。

《本年度、防災部は》・・・

事務局長 軸丸真行

平成19年度の事業計画については、3月25日の総会において承認されましたが、

- ①「自助」の観点から、「なまず通信」等を通しての「啓発活動」に
- ②「共助」の観点から、「安否確認訓練」等の「防災訓練」に

本年度も、継続して、力を入れたいと思います。

防災部が自治会機能から分離独立して、『自治会役員と（ボランティアである）災害活動員とが強調を取り、堅田断層地震に備える実効的な体制を確立しよう』と努力していることが、残念ながら、衣川台に住む全所帯に理解されているとは言えない現状にあります。防災部としては、情熱を失うことなく、活動を続けたいと考えているところですし、衣川台のねらいを広くご理解頂き、活動にご協力願うことは大事なことで、本年、初めての試みながら、「防災マニュアル講習会」を企画致します。ご案内時には、是非ともご出席頂き、忌憚の無いご意見やご叱責を、賜りたいと存じます。

堅田断層

丹波山地深部まで延長

京大など調査 プレート内地震も

京都大防災研究所と東京大地震研究所が昨年実施した京都、滋賀から岐阜まで東西約百キロの地殻構造調査の結果が五日までにまとまった。琵琶湖西岸断層帯のひとつ堅田断層(大津市堅田、南北約十キロ)が丹波山地の地下深くまで続くと推定され、近江盆地の地下を震源とするプレート内地震の可能性も新たに示された。近畿の地震防災を考える上で、極めて重要な情報になりそうだ。

調査は昨年十月から十一月に行った。湖底を含む東西方向に地震計を設置し、大型起重機やダイナマイトによる人工地震で地下構造を調べた。

琵琶湖西岸の堅田断層は、地表から西に向かつて傾きながら地下深くへ伸び、ほぼ垂直と考えられる花折断層(高島市)・京都市左京区)を越えて、丹波山地(京都市、南丹市)の地下十五キロ程度まで伸びていると推定

された。花折断層の深部とのつながりは不明だが、ふたつの断層の間にある伊香立断層は堅田断層とつながるとみられる。京都市域に大きくかかる斜めの断層はこれまで想定されていなかった。地震を起す活断層かどうかは不明だが、調査メンバーの伊藤滋京大防災研究所地震予知研究センター教授は「琵琶湖西岸断層帯の地震が、これまで考えていたより京都で強い揺れになる可能性もある」という。

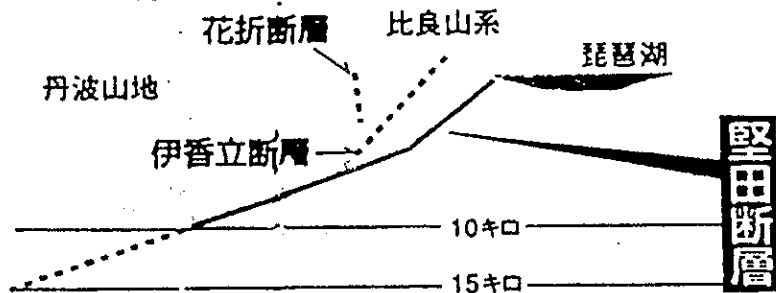
より深部の解析から、太平洋から西日本の地下に滑り込むフィリピン海プレート(位置も判明)の位置も判明した。近江八幡市など近江盆地で東から西に傾斜するプレートの落ち込みが推定され、この落ち込みが琵琶湖の形成に関係していると考えられる。

プレートが落ち込むところではプレート内で破壊が起こり、しばしば大地震を引き起こす。西日本でも、広島県や愛媛県で大きな被害が出た芸予地震(二〇〇一年)などがあるが、活動の評価は

私達はこんな所に

住んでいます!

近いとされる。近畿・中部地方では一八一九(文政二)年に湖東を震源とするマグニチュード(M)7クラスの地震(伊勢・美濃・近江地震)が発生し、被害は滋賀から岐阜まで及び、多くの死者が出た。伊藤教授は「謎の地震といわれ、震源は不明だったが、今回の調査でプレート内地震だった可能性が示された。昔段は地震が少ない地域だが、大地震への注意が必要だ」と話している。



防災ひとくちメモ その7

グラツときたら! 「エレベーター」の中で

エレベーターに乗っていて地震を感じたときは、非常ボタンと各階のボタンを全部押し、最初にとまった階で降りて、階段で避難してください。

万一、エレベーターが階と階の間で停止した場合、無理に脱出しようとせず必ずインターフォンで連絡をとり、係員の指示に従ってください。揺れが治まっても点検が済むまで使わないこと。

特に、停電で止まったエレベーターは、電気の復旧後すぐ使うと、中に閉じこめられる恐れがあるので、使わないでください。

